



岸和田市郷土文化室（自然資料館・郷土資料館）

平成 19 年 3 月 1 日

波打ち際の自然史

村上 健太郎

皆さんは、「心に残る風景」というと、どんな場所を挙げられるでしょうか？私は生まれも育ちも島本町（大阪府と京都府の境にある）なので、海からは離れたところに住んでいたのですが、心に残る風景として、ある海岸が思い浮かびます。そこは、海水浴場として有名な竹野浜（兵庫県豊岡市）で、美しい砂浜で知られている場所です。両親の出身地が兵庫県北部だったので、私の家では、帰省のついでに海水浴に行くのが毎年の一大イベントでした。いつも8月の初めに竹野浜へ出かけて、砂浜で泳ぐだけでなく、砂浜の脇にあった磯でヤドカリや貝をとったり、イソギンチャクやヒトデをさがしたりしました。また、民宿の近くの海岸林でセミやカブトムシをとったこともあり、朝から晩まで真っ黒に日焼けしながら遊んだものでした。竹野浜へ行かなくなって、20年が経ちますが、私の心には、いつまでも美しい波打ち際の風景が残っています。日本は四方を海に囲まれているので、心に残る風景として、美しい海岸・水辺を挙げる人は、私に限らず、多いことでしょう。

岸和田をはじめとした泉州地方に住む人にとって、最も身近な波打ち際といえば、大阪湾の海岸になると思いますが、今の大阪府の海岸は、工業地帯や道路、大型の商業施設が立ち並び、どこもかしこも人間くさいところばかりです。人工物がない海岸を自然海岸と定義すると、自然海岸は大阪府の海岸線全体の約1%にすぎず、海岸の一部にのみ突堤や護岸などの人工構造物がある半自然海岸を含めても、全体の約4%にしかないそうです。このような現状は、現在の大阪湾（ことに大阪府側の海岸）が波打ち際の生きものにとって、大変厳しい環境になっているということを示しています。また、1%、4%という数字は、私がかつて竹野浜で接したような自然と、大阪湾で接することが難しいことも同時に示しています。



特別展「波打ち際の自然史」

きしわだ自然資料館では、2007年3月25日まで、特別展「波打ち際の自然史」を行っていますが、この特別展は、そのような厳しい環境の大阪湾岸にすむさまざまな生きものに焦点を当てたものです。植物、甲虫、鳥類、カニ、魚、ウミガメなどの大阪湾の生きものの標本のほか、干潟の地形模型、干潟の表層断面の引き剥がし標本、大阪湾の昔の海岸風景を写した写真、絵葉書なども展示しています。自然海岸がほとんど残っていないという背景から、大阪湾で見られる生きものの中には絶滅に瀕しているものが多く、実際に多くの生きものが既に絶滅して

しまっていますが、そうした生きものたちの生態を知っていただく機会になればと考えて企画したものです。また、この特別展を記念して、同時に「波打ち際の自然史」という冊子も発行しました。この冊子も、特別展と同じく、大阪湾岸を中心とした海岸にすむ生物とその環境について取り上げたものです。この冊子に書かれた内容のいくつかについては、特別展の中でも取り上げていますので、特別展の解説書としても使えますし、大阪湾の今の環境を知るのにも最適の書となっています。専門的な内容ですが、論文というわけではなく、皆さんに読みやすいようにコラム仕立てになっています。20 編のコラムは、総勢 22 名の専門家、学芸員、地域で活動する市民らによって書かれており、自然資料館が発行する冊子としては今までにないタイプのものだと思いますので、ぜひこの機会にござんいただければと思います。

特別展や冊子を実際につけていく過程で最も強く感じたことは、大阪湾の自然は今にも窒息しそうな状態にあり、そこにすむ生きものたちには、大変厳しい環境であるということです。しかし同時に、海岸環境の自然を回復させることは十分可能であり、実際にそうした取り組みが既に始まっているということも知りました。大阪湾は、紀淡海峡から太平洋へ、明石海峡から瀬戸内海へ、そして世界中の海へとつながっています。逆に世界中の海の環境が保たれている限り、大阪湾の波打ち際も回復させる可能性があるのではないのでしょうか。大阪湾の波打ち際が、皆さんの「心に残る風景」となることをねがっています。

特別展「波打ち際の自然史」

会期：2007 年 2 月 1 日（木）～3 月 25 日（日）

時間：10:00～17:00 休館日：毎週月曜日、3 月 22 日（木）

場所：きしわだ自然資料館 1 F ホール（岸和田市堺町 6-5）

入場料：大人 400 円・小中学生以下無料

冊子「波打ち際の自然史」

編著者：村上健太郎・平田慎一郎

著者：和田恵次・辻本英和・上久保文貴・澤田佳宏・植村修二・楠瀬雄三・遠藤知二・河上康子・山田浩二・児島格・濱谷巖・日下部敬之・花崎勝司・亀崎直樹・渡辺克典・風間美穂・瀬戸口喜祥・寒川旭・花野晃一・田中正視

発行：きしわだ自然資料館

価格：400 円（自然資料館ミュージアムショップにて販売）

内容：生物多様性、海岸地形、植物、昆虫、カニ、貝、魚、ウミガメ、鳥、海岸工学、地震、成ヶ島、男里川などに関するコラム集。

体裁：B5 版 60 ページ



冊子「波打ち際の自然史」

（むらかみけんたろう：自然資料館学芸員）

古文書を読む

山中 吾朗

日本に文字がなかった時代のことは別にしますと、古文書は歴史を知る上で最も基本的な史料です。しかし、

古文書は一般の方にとっては非常にとっつきにくい代物で、それなりの知識と経験を積まないと読みこなすことは容易ではありません。まず、連綿体(いわゆる「くずし字」)で書かれていることです。書道の達者な方は別に、古文書を一目見て何が書いてあるのかすぐにわかる人はごく少数でしょう。また、仮に字が読めたとしても、漢文(正確には和風の漢文ですが)で書かれていて、読み方や意味を理解することは困難かと思われます。そこでここでは漢文調の古文書の実例から、読み方や解釈の仕方を解説してみましょう。

次の古文書は、応永7(1400)年に、足利義満が岸和田荘の半分を石清水八幡宮寺に寄進したもので、地名としての「岸和田」の初見史料でもあります。

(原文 一部返り点を入れています) 寄附 石清水八幡宮寺 和泉国岸和田庄半分事 右、所^レ寄^二附当社^一之状、如件、 応永七年九月廿八日 入道准三宮前太政大臣(花押)	(読み下し文) 寄附す 石清水八幡宮寺 和泉国岸和田庄半分の事 右、当社に寄附する所の状、くだんの如し 応永七年九月廿八日 入道准三宮前太政大臣(花押)
---	---

まず、右側の原文を見てください。ひらがながなく、全て漢字で書かれています。これを読むためには、適宜、送り仮名をいれたり、下から上へ返って読んだりします。1行目は、「寄附」のように動詞であれば、「寄附す」と送り仮名をつけます。他によくある例では、「致候」は「致し候」、「承了」は「承り了(おわ)んぬ」となります。

3行目は、「岸和田庄半分の事」と助詞「の」を補います。助詞「の」は4行目のように「之」と書かれる場合もありますが、省略されている場合も少なくありません。

4行目は「当社に」と助詞「に」を補い、「当社に寄附する所」と下から返って読みます。上の原文には返り点(「一」「二」「レ」)を入れておきましたが、もちろん原文にはありません。

和漢文は、主語(省略される場合も多い)＋述語(動詞)＋目的語の順に単語が並ぶ場合が多いので、何が主語で何が述語(動詞)なのか見極めることが大切です。これは英語の文法と同様です。漢字が並んだ文章を見て、まず熟語を探します。上の場合は「寄附」「当社」が熟語で、「寄附」が動詞(述語)、「当社」が目的語とわかれば、「当社に寄附する所」と読めます。

なお、「所」はほとんどの場合、下から返って「～する所」と読みます。他によくある例として、「可」は「～すべし」、「被」は「～され、～られ」と下から読みます。「可被仰付」とあれば、「仰せ付けらるべし」です。これらは江戸時代の古文書でも頻出します。

本文末の「如件」は、公式文書にはよく出てくる書き止めの文言で、「以上」と同じような意味です。

最後に日付と「入道准三宮前太政大臣(花押)」とあります。入道准三宮前太政大臣は足利義満で、文書の左端(「奥」といいます)にあるので、宛先と思われるかもしれませんが、実はこの文書の発給者です。普通は日付の下(「日下」<じっか>といいます)に発給者名が書かれる場合が多いのですが、特別な地位の人物なので、奥に書

いています。

古文書の読み方(文法)をこのように解説すると難しく思われるかもしれませんが、しかし、かつて日本語の文法を学校で習った際には難しく感じたかもしれませんが、実際には普通に日本語を話したり書いたりしています。同じように、古文書も文法を説明すると難しいのですが、慣れれば決して難しいものでもありません。

4月より、郷土文化室では、毎月1回、第2土曜日の午前10時～12時まで、中央公民館にて古文書講座(初級)を実施します。興味のある方はご参加ください。なお、事前申し込み制ですので、申し込み方法等は「広報きしわだ」3月15日号をご覧ください。

(やまなかごろう：郷土資料館学芸員)

Information

■ 郷土資料館からのお知らせ ■

企画展「郷土の書画」

郷土資料館で収蔵する江戸末期から昭和初期までの書画家らの作品約15点を展示します。また、故佐々木勇蔵氏の短冊コレクションから、鎌倉～桃山時代の公家・武士・僧侶らの短冊約40点を紹介する特集展示「中世の短冊」も併設します。

- ・会期：2007年3月15日(木)～3月31日(土)
- ・会場：岸和田城天守閣2階展示室
- ・時間：10時～17時(入場は16時まで)
- ・入場料：大人200円 中学生以下無料
- ・主な展示品：森古泉筆「猫句画賛」/小川翠村筆「岸和田八景」/一条兼良和歌短冊/毛利輝元筆和歌短冊

■ 自然資料館からのお知らせ ■

特別展記念講演会「波打ち際の人と自然」

特別展「波打ち際の自然史」に関連した講演会を開催します。大阪湾にやってくるウミガメや魚類から見た海岸の環境について学び、大阪湾沿岸部の現状と将来について考えてみませんか？

- ・日時：2007年3月21日(祝) 13:30～16:00
- ・講師：亀崎直樹氏(日本ウミガメ協議会会長)・日下部敬之氏(府立水産試験場主任研究員)

- ・対象：小学生以上(小学生は保護者同伴で)
- ・会場：だんじり会館1階会議室
- ・申込：午後1時から受付開始。先着順。
- ・定員：50名

カラフル！化石レプリカづくり

スーパーボールの原料を使って、化石のレプリカを作ってみましょう。20分くらいでできあがります。安全ピンをつけると、ワッペンにもなりますよ。

- ・日時：2007年4月8日(日) 13:30～15:30
- ・会場：自然資料館1階ロビー
- ・材料費：無料
- ・対象：4才以上の人(小学校3年生以下の方は、保護者同伴で参加してください)
- ・申込：不要・先着順。当日実施時間中にお越しく下さい。材料がなくなり次第終了いたします。混雑時は、お待ちいただくこともありますので、ご了承ください。

お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>
Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)